

主 題：新しい人生を生きる

聖書箇所：コリント人への手紙第二 5章17節

「Born Again」ということばをお聞きになったことがありますか？1960年代の後半から、特に、アメリカでこの呼び名が使われるようになりました。もちろん、聖書のヨハネの福音書3章に「…人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」(3:3)と記されているのですが、福音派のクリスチャンたちの間でそのようなことばが使われるようになりました。どうしてこの呼び名が使われるようになったのか、その理由の一つは、恐らく、多くの人たちが自分はクリスチャンであると呼んでいる現状を見て、本当のクリスチャンと名ばかりのクリスチャンとの区別をするためだったと言えます。私たちはそのように理解しています。「Born Again」と言うことによって、本当のクリスチャンとはどういう人なのか？クリスチャンとはいったいどのような祝福をいただいた者たちなのか？そのことをこれまで以上により鮮明にしようとしたのだと思います。

確かに、聖書が教えるように「Born Again」ということばは「新しく生まれ変わった」ことを意味します。私たちクリスチャンは新しく生まれ変わった者です。昔、私の友人は手紙に署名をするときに、当時はまだインターネットが普及していないときで、署名の前にいつもこのように書いていました。「二度生まれた」と。日本語では格好よくありませんが、英語ではとても格好いいです。そのように書いてサインしていました。それを見ながら、彼に聞いたことがあります。すると、思っていた通りの返事が返って来ました。「私が手紙を送るときに、私は生まれ変わったのだということを読む人すべてに知ってもらいたい」と。

クリスチャンとは「主イエス・キリストを個人的に知り、その生き方が変えられた者」です。ゆえに、私たちは「新しい人生を生きる新しい人」です。私たちは数ある宗教の中から一つを選んだわけではありませんし、親がそうだったから仕方なしに私も…、というのでもありません。そうでないことを期待します。新しく生まれ変わったクリスチャンは新しい生き方をする者ですから、イエスを信じたと言いながら、これまでと同じ生活をしているならどこかおかしいのです。私たちが繰り返してみことばを通して学んで来たように、新しく生まれ変わった人はそのことを生き方をもって明らかにして来ました。少なくとも、このことを先ずクリアにしておきましょう。「クリスチャンは新しい人生を生きる新しい人である」と。主によって生まれ変わったなら、この地上にあって新しい人生を生きるのです。

私たちはそのことをⅡコリント5:17で学んで来ました。もう一度、このみことばを見てください。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」。実は、今日だけでなく、これから私たちは繰り返し「生きる」ということについてみことばを見ていきます。というのは、繰り返しますが、私たちの信仰は生きているものです。イエス・キリストを信じるということは「新しく生まれ変わる」のです。「新しい人生が始まる」のです。神が生きておられるように、その神を信じた私たちは新しい生き方を始めていくのです。ですから、私たちは何かの宗教をいっしょに学んでいるのではありません。生まれ変わった者として、主の前をどのように生きていくのが正しいのか？どんなことを主が望んでおられるのか？そのことを見ているのです。なぜなら、私たちは新しく生まれ変わった者として新しく生きていきたいからです。

だから、私たちひとり一人が考えなければいけないことは、「私の人生はどのようなだろう？私の信仰は私を変えてくれているのだろうか？私はこれまでと異なる新しい生き方をしているのだろうか？」ということ。どうしてもそこに重荷が与えられている以上、私たちはみことばを通して繰り返してそのことを学んでいくことが必要です。なぜなら、信仰の勇者たちはそのように生きたからです。彼らの生き様はほんとうに生まれ変わったことを明らかにしました。そして、生まれ変わらせてくださった神を証したのです。神は同じことをあなたにも望んでおられます。ですから、繰り返してそのことを学んでいきます。願わくは、私たちの生き方が主が望んでおられるようなものに変えられていくことです。

Ⅱコリント5:17「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。」、これは「新しく生まれ変わる」ということ、「新生」、「Born Again」、つまり、「救い」のことです。「新しく造られた」という表現はパウロがよく使っています。ガラテヤ6:15には「割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。」とあります。「新しい創造」、「新しく造られる」ということです。実際に、この当時のユダヤ教の教師たちは、罪が赦された人のことを「新しく造られた」「新しい創造」と呼んでいました。ですから、パウロはそのことばを使って、救われた人のことを「新しく造られた」と言ったのです。罪を赦され、生まれ変わったから、新しい人

生を歩むことができる、それが可能になったということです。これまで、誤った生き方をして来た罪人が新しい歩みを始めることができるのです。確かに、私たちが救われる前の生き方を思い出すと、私たちは主が憎まれることを行ない、もっと正確に言うなら、主が憎まれることしか行えなかった私たちが、主がお喜びになることを行なえる者、そのように生きる者へと変えられた、これが救いです。

皆さんもよく覚えておられるでしょう。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」(エペソ2:10)、私たちが今見ている通り、パウロはこのように教えています。私たちが救われたのは、私たちが良い行ないを為していくためだと。続いて、「神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」とあり、造り変えられたあなたはこれまでできなかった新しい歩みをするができると言うのです。ここにおられる信仰者の皆さんに例外なく、神はこのように教えています。救われたあなたは新しい生き方をするができます。なぜなら、神がその良い行ないをあなたに備えてくださっているからです。備えてくださっているということは、神ご自身がその働きを助けてくださるということです。生まれ変わるだけでなく、あなたがどのように歩いていくのかを神は備えてくださり、それを実践できるように助けを与えてくださるのです。まさに、私たちは、車のガソリンも満タンでエンジンもかかっているから、そこに座ってギアを入れて進めばいいのです。そのために必要なことはすべてしてくださったのです。整備はすべてできているのです。そのように私たちは新しい歩みを始めることができる者へと生まれ変わったのです。

◎ II コリント 5 : 17 の後半

(1) かつての自分は死んだ

「古いものは過ぎ去って、」とあります。新しい歩みをするためにはこれまでの自分は死ななければいけないのです。神に逆らい続け神の敵として生きていたこれまでの私はもう死んだと言うのです。ですから、この時制もそのことを明らかにしています。現在形を使いません。過去に起こった出来事としてこのことばは記されています。

(2) 新しい自分が生きている

そして、「すべてが新しくなりました。」と、新しい自分が生きていると言います。この時制は完了形です。もうあなたのすべては新しくなったということです。完了形を使ったということは、あなたはもうすべての点において新しくなって、その結果が今も続いている、あなたは今もずっと新しい状態が続いているとパウロは言うのです。ですから、信仰者の皆さん、あなたが新しく生まれ変わったということは、このような点において新しくされているのです。

a. 新しい目標、新しい目的が与えられた

これまでとは違う目的、目標をもって生きる者へと変えられたのです。これまでは自分のためでしたが、今度は神のために生きようとします。自分自身の名誉、栄誉、富のためかもしれない。そのような自分のために生きる生き方から、主のために生きるという本来のあるべき姿に私たちは変えられ、そして、正しい歩みを為すことができる者へと生まれ変わったのです。

b. 新しい価値観をもつ

私たちはこれまでの価値観では生きないのです。人がどう見るか、人がどのように評価してくれるかではなく、神がどう見るか、神がどのように評価してくださるか、その違った物差しをもって生きる者へと私たちは生まれ変わりました。

c. 新しい願い、新しい夢をもっている

これまでは自分の夢でした。今度は神にあっての夢です。

d. 新しい人格をいただいた

よくこのようなことを耳にします。「私は生まれながらに短気な者です」、「私は生まれながらにこんな性格をもっているのです」と、そのように言われる信仰者のことばを聞いて来ました。そのとき、いつも「でも、救われてよかったですね」と思います。救われるということは、その人の人格自体が変えられるからです。短気だった人が柔和な人、穏和な人に変えられていくのです。それが救いなのです。非常に頑固だった人が変えられていくのです。神の前に謙虚な人へと…。なぜなら、信じた瞬間に、聖霊がその人のうちに与えられて、聖霊なる神がある働きを始めてくださるからです。キリストに似る者へとその人を変えようとされるのです。だから、信じた人の人格自体が変わっていくのです。救われて罪赦されて天国へ行ける…と、それだけではないのです。神はあなた自身を新しく生まれ変わらせてくださったのです。それが救いです。だから、私たちはことばだけでなく生き方をもって、変えてくださった神を世の中に証していくのです。

e. 新しい心が与えられた

もう一つは、非常に大切なことです。生まれ変わるということは、神はあなたに「新しい心」を与えてくださったのです。あなたは確かに新しい目的や目標をもって生きる者になったし、新しい価値観を

もって生きる者になったし、新しい願いや夢を持って生きるし、そして、新しい人格が与えられているだけでなく、神はあなたに新しい心を与えてくださった、それが救いなのです。エゼキエル書にこのようなことばがあります。36：26「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。」、クリスチャンの皆さんは新しい心を頂いているのです。だから、新しい正しい行ないをしようとするのです。心が新しいから、そこから新しい正しい行ないが生まれて来るのです。詩篇の著者はこう言っています。51：10「神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。」と、彼らは知っていたのです。神が心を造り変えてくれることを。そして、感謝なことに、救いというのは神があなたに新しい心を与えてくださるのです。

*** あなたの心が新しくなったから、あなたは新しい行ないをすることが出来るようになったのです。**

心が罪に汚れているなら、その人の行ないは必ず罪に汚れたものになります。心の中にあるものが出て来るからです。世の中の宗教はどれを取ってみても行ないを変えようとします。でも、残念ながら、心を変えることは出来ません。どんなに修行を積んだとしても、どんなにあなたが自分自身を鍛錬して苦行を課したとしても、そのような行ないはあなたの心を変えません。確かに、行動はある程度変わるかもしれませんが、問題は心です。自分ではどうすることも出来ない心を変えてくださるのは、神ご自身です。この方があなたを造った方です。ゆえに、この方はあなたを造り変えることが出来るのです。神の約束、神の救いは、あなたに新しい心をご下さるというものです。ですから、「新しい人生を生きるために」、私たちキリスト者は生まれ変わったのです。救われたのです。私たちが救われたのは、私たちが生まれ変わったのは、新しい人生を生きていくためです。

今、見て来たように、パウロは「かつての自分はもう死んだ。私は新しくされた。新しい目的、目標を持って、新しい価値観を持って、新しい夢を持って、新しい人として私は生きる。なぜなら、私の心が新しくされたから。」と言いました。そして、そのように変えられたパウロは、変えられた者として非常に熱心に生き続けました。「救いとは何かを知り」、また、「救われたこと」を心から感謝していました。そのことについて、Ⅱコリント5：14、15でこのように教えています。「：14 というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。」「こう考えました」とは「私はこのように決心しました。このように決定しました。」ということです。何を経てパウロはこのように決心したのか？彼はイエス・キリストの十字架と復活を覚えたときにこの決心に到達したということと言わんとするのです。主イエス・キリストの十字架を見て、イエス・キリストがその死から敢然と肉体をもってよみがえって来たその事実を覚えるときに、彼は次のことを決心したのです。それは「神のために生きる」ということです。

続いて、「ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。：15 また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」と、このように彼自身が決心しただけでなく、すべての信仰者にそのことを勧めるのです。「私はこう生きるけど、あなたもそのように生きよう！我々は同じようにこの救いに与ったのだから。」と。ですから、私たちは新しく生まれ変わった者として、私たちが生まれ変わるために主があのかの十字架に掛かってくださったこと、そこでいのちを捨ててくださったこと、そして、三日後に肉体をもってよみがえってくださったこと、そのことをしっかり覚えるなら、「私はこの方のために生きよう！この方は私を救い出すためにいのちを捨ててくださった。この方に報いることはこの方のために生きることだから。」と、それがパウロの決心であり、そして、それがあなたの決心であって欲しい、そのようにありなさい！とパウロは勧めるのです。

でも、皆さん、そのことをパウロから勧められなくても、あなた自身がそのことを知らなくても、イエスの十字架を見上げて、主のあのかの大きな犠牲を見たときに、主が味わわれたむごたらしい苦しみを見たときに、そして、その死後三日目にあの栄光をもってよみがえって来られた姿を見たときに、この犠牲が私を罪から救ってくださった、この犠牲が私を生まれ変わらせてくださった、この犠牲が私を新しく造り変えてくださったと、そのことを覚えて、私たちは当然、「この方のために生きていきたい！」と決心したはずです。これは何も、宣教師になりましょう、牧師になりましょうと言っているのではありません。救われた者として、このすばらしい祝福をくださった方のために生きることが愚かなことではなくてすばらしいことです。無駄なことではなくて価値あることです。もっと言えば、それは正しいことです。ですから、パウロはそう決心するし、そして、すべての信仰者にそのように言うのです。あなたにそのように言うのです。「そう生きなさい！それが主の前にふさわしいことだ！」と。

*** 「救い」とは…**

- ・主とともに死ぬことである
- ・主とともに生きることである

これが救いです。かつての私はイエスとともに死んだのです。自分中心に自分を愛して自分のために生きて来たその自分は死んだのです。神に背を向けて神の敵として生きてきた自分は死んだのです。そして、イエス・キリストともによみがえったのです。主とともに生きるだけでなく、主のために生きる者として生まれ変わったのです。パウロはこのように言います。ローマ6：4「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」と。感謝なことに、私たちは新しい歩みをすることが出来る者として生まれ変わったのです。本来あるべき生き方を、生きるべき生き方を実践する者として生まれ変わったのです。

信仰者の皆さん、そのために神はあなたを造ってくださり、そのために神はあなたを救ってくださったのです。私たちが創造された目的は「創造してくださった方のために生きること」です。しかし、私たちはその方に逆らうという選択をもって、好き勝手な生き方を始めたのです。神は滅ぼしてもいいのにあなたをあわれんでくださって、救い主をもってあなたをその罪から救ってくださった、生まれ変わらせてくださったのです。神は言うておられます。「本来あるべき生き方をしなさい。あなたを造り、あなたを造り変えたわたしのために生きなさい。」と。私たちクリスチャンはそのようなあるべき生き方を実践できる者へと生まれ変わったのです。少なくとも、私たちが覚えておきたいことは、どのようにしてこの方を喜ばせようか、どのようにしてこの方に喜んでいただくか、どのようにしてこの方のすばらしさを証していこうかと、そのことを考えて生きていくことです。

同時に、神がくださった聖書が「このように生きなさい。これが神があなたに望んでいることだ。」と言われることをしっかり学んで、そのことを神の助けを頂きながら実践していくことです。そのようにして私たちは生きるのです。

今から、残されている時間内でいくつかのことを皆さんにお話しします。これらのことはもう皆さんはご存じのことです。これまで何度も学び、これからも学び続けていくことです。新しく生まれ変わった者として、あなたはどのように生きていくべきか、新しく生まれ変わった者の新しい生き方とはどのようなものかを見ていきます。

☆新しく生まれ変わった者の具体的な生き方

A. 神を愛する

1. 神を愛する者へと生まれ変わった

先ほどから見てるように、「救いとは新しく生まれ変わること」です。私たちはどんな人へと新しく生まれ変わったのでしょうか？ I コリント 8：3 を見てください。「しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのです。」、実は、パウロはここで、救われている人の特徴を記しているのです。「神に知られている」とありますが、この「知る」というのはただの知識のことではありません。密接な関係のことです。聖書の中で「知る」ということばが使われる時、もちろん、何かの知識を得るという意味もありますが、「アダムがエバを知った」という性的な関係、親しい交わりという意味をもっています。ですから、パウロが教えていることは「神との特別な密接な関係」のことです。あなたは「神に知られている」、あなたは神と特別な関係、密接な関係のうちにあると言うのです。これは救いのことです。

パウロはガラテヤ人への手紙の中でこのように言っています。4：9「ところが、今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうしてあの無力、無価値の幼稚な教えに逆戻りして、再び新たにその奴隷になろうとするのですか。」と。ここにも「知る」ということばが出ています。単なる知識を持っているということではなく、神とそのような個人的な関係を築いているということです。この創造主なる神が私の神であり、私はこの方の子どもである。この方は私の主人であり私はこの方の奴隷であると、そのような特別な関係、救いのことです。

ですから、この I コリント 8：3 でパウロが言っていることは、人が神を愛するなら、その人は神に知られている、つまり、その人は救われていると言っているのです。ですから、救われている人の特徴は「神を愛することだ」とパウロは言うのです。救われている皆さん、もし、あなたが自分の救いが本物かどうかと疑うのなら、自分自身にこのように聞いてみるといいのです。「私はイエスのことを愛しているか？」と。救われていない人の心の中にこの神に対する愛はありません。生まれ変わったことによってあなたは、神を憎んで来た者から神を愛する者へと生まれ変わったのです。神の敵であった者が神の味方となったのです。正確に言えば、神が私たちの味方となってくださったのです。そのような特別な関係に私たちは入れられたのです。

ローマ 8：28 を思い出してください。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」、「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」…、これはどのような人への約束か？ 見てください。みことばは教えています。「神を愛する人々、」とあります。「神が愛する人」ではありません。そして、「すなわち、」とそ

の人たちのことを説明します。「神のご計画に従って召された人々」と続きます。神があなたを選んで救いへと導いてくださったのです。神が世界を造る前にあなたを選んでくださって、あなたを救いの中に招いてくださったのです。そのように神があなたを救ってくださったのです。神によって救われた私たち、その者たちの特徴は「神を愛する人たち」だと言うのです。なぜ、あなたが神を愛するのか？それは神がご自身の計画に従ってあなたを召してくださったからだと言います。だから、救われていることが明確にどのようにして分かりますか？あなた自身が自らに問うてみることです。「私は主を愛するか？」と…。神を愛することが救われている人の特徴です。あなたはそのような人に生まれ変わったのです。だから、神を愛することが出来るのです。

ということは、救われていない人は神を愛することは出来ません。ですから、結婚においてもビジネスにおいても、神が「つり合わぬくびきを負ってはなりません」と言われるのはそのことです。神の敵であるサタンを愛する者と、神を愛する者がどのようにして一つになって神を崇めていくことが出来るのでしょうか？神の栄光をどのようにして現わしていきますか？つり合わぬくびきを負ってはならないというのは結婚関係だけのことではありません。ビジネスにおいてもそうです。全く違う方向を向いている人たちがどのようにして一つの思いをもって主のために生きていくことが出来るでしょうか？神を愛する者へと私たちは生まれ変わったのです。それが救われた者たちです。

2. 神への愛の証をする生き方をする

「神を愛する」とことばで言うだけでなく、実際にそのように生きていくのです。そして、その生き様が本当に神を愛していることの証になると言うのです。ですから、救われた者は神を愛する者へと生まれ変わったのですが、そのことを実際の行ないをもって証していくということです。そのことについて、主イエスご自身から学んでいきましょう。

1) 主イエスの罪人への愛

イエスは罪人である私たちに対して「あなたを愛します」と、ただことばだけで言われたのでしょうか？その愛は実際の行ないによって証明されました。イエス・キリストの愛には行ないが伴っていました。Iヨハネ3：18でヨハネはこのように教えています。「子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」と、なぜなら、それが主の愛だからです。主がそのような愛をもって私たちを愛してくださったからです。皆さんご存じのように、救われた人は主イエス・キリストに似た者に神によって変えられていきます。ですから、イエスが持っておられた愛を私たちも実践する者へと変えられていくのです。それが可能な人へと生まれ変わったのです。そして、それを私たちは日々の生活において実践していくのです。ヨハネが私たちに教えることは、主がそうであったように、「ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって」愛そうではないかということです。なぜなら、それが主の愛であり、それが主が望んでおられる愛だからです。

同じように、Iヨハネ3：16を見てください。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」、主イエス・キリストのあなたへの愛はあの十字架が証明しました。イエス・キリストがベツレヘムでこの世に産声を上げたこと、それが私たちにこの神が私たちを愛して下さっていることを明らかにしています。イエス・キリストの生涯は明らかに、主があなたを愛していることを示してくれました。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。」と。「愛」ということばを使っても全く違うことを言っている場合があります。今、私たちが見ている「愛」は、イエス・キリストが行ないをもって証明して下さった、示して下さったその神の愛のことです。ヨハネは「その愛をもって互いに愛し合いなさい」と言います。

同じように、Iヨハネ4：9、10を見てください。「9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」と、同じことをヨハネは繰り返しています。10節「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」、ですから、主イエス・キリストのあの犠牲を見た時に、私たちはこのような行動の伴った愛をもって、神を愛し人を愛するのです。私たちがなぜ喜んで主のために犠牲を払おうとするのか？主を愛しているからです。

皆さんはなぜ、いろいろな予定のある中でこの定められた時間にここに集まって来ていっしょに主を崇めようとされるのでしょうか？「来なければいけないからやって来た」のではなく、あなたは「神を愛するから集まって来た」と、そう信じます。生活はだんだん苦しくなって来る、でも、神に喜んで捧げましょうと、なぜ、そのように犠牲的に捧げようとするのでしょうか？そうしなければだれかが何かを言うからでない、主を愛しているからだと信じます。間違いなく、あなたも自分の行ないをもって主への愛を証しておられます。「神様、私はあなたを愛しています。あなたがこんなにも私を愛して下さったから私はあなたを愛します。」と、ことばだけでなく実際の行ないをもって喜んでその愛を示して

います。

同じように、人々に対しても、人々の必要に答えていこうとします。弱っている人がいるなら、そこに行っていっしょに祈ることをする。励ましが必要な人がいるなら、そこに行っていっしょに涙を流して、ともに主を見上げようとする。なぜそのような時間を取るのか？愛しているからです。私たち新しく生まれ変わった者たちは、生まれ変えらせてくださった方の愛を実践する者として生きているのです。主イエス・キリストの愛はまきに行ないの伴ったものでした。

2) 主イエスの父への愛

同時に、主イエスの父なる神への愛を見たときに、今、私たちが見ている愛がどういうものかがよく分かります。Iヨハネ5：3に「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」とあります。重荷でないのは喜んでするからです。嫌々やっていたら重荷です。でも、喜んですることにおいては重荷ではないのです。ですから、このみことばは「神を愛するとは神の命令を喜んで実践していこうとすること」と教えます。イエスはその愛の定義を生きたお方です。ヨハネの福音書17章を見てください。ここには「主の祈り」が記されています。17：4「あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。」、この箇所ギリシャ語を直訳すると「わたしは地上であなたの栄光を現わしました。あなたが行なうようにとわたしに与えられた働きをわたしは成し遂げました。」となります。主イエス・キリストがここで父なる神に祈られたときに言われたことは「この地上にあってわたしはあなたの栄光を完全に現わした。」です。すべての点において主イエス・キリストは父なる神の栄光を現わしたのです。それがイエスがこの後十字架に掛かる前にここで祈られたときに言われたことです。それは事実だからです。

どのようにしてイエスは父なる神の栄光を完全に現わしたのでしょうか？

***それは完全に「父なる神のみこころに従うこと」によって、すなわち、「神のみことばに従うこと」によって栄光を現わされた。**

それがこの17：4で教えられていることです。主イエス・キリストは父なる神のみこころに100%従順に従うことによって、その父なる神の栄光を現わしたと言います。ですから、父なる神のみこころに従っていくそのときに主の栄光が現わされるのです。あなたが神のみことばをしっかりと学び、そのみことばに従っていくなら、神の栄光が現わされるのです。だから、私たちはみことばを正しく学び、それを実践することをいつも話すのです。皆さんもこのように言われるからです。「私が生きているのは神の栄光を現わすためだ。あなたも神様のすばらしさを証するために生きているのだ。」と。そのためには神のみことばに従わなければいけないのです。イエスは父なる神を愛してその方の栄光のために生きたのです。そして、その方の栄光を現わしたのです。どのようにして？イエスが言われたように、みこころに完璧に従うことによってです。栄光を現わす方法はそれしかないのです。神のみことばに逆らいつつながら神の栄光を現わすことなど絶対に出来ないのです。

こうして私たちは毎週、神のおことばを通して、これが神のみこころだと学んでいます。もし、私たちがそれをノートに取ったりレジュメに何かを書き込んだりしても、それを聖書に挟んで次の週までそのままにしているなら栄光を現わすことなど出来ません。神のおことばに従っていこうとしても、その実践を行わないなら、あなたは神の栄光を現わすことは出来ないのです。あなたは神によって救われ生かされている目的を果たさないことになるからです。だから、私たちは神がおっしゃったことを実践しようとするのです。そのためにこうして兄弟姉妹がいるのです。「主がこれを教えてくださったから私はこのように生きていきたい。だから、祈っていてほしい。」と、励まし合って実践していこうとします。何のために？私たちの神が喜んでくださるため、神の栄光が現わされるためです。

そのようにして主は生きたのです。主イエス・キリストはそのように生きたのです。そして、父なる神の栄光を完璧に現わされたのです。ですから、神が私たちがどんな愛でもって愛してくださったのか、ことばだけでなく行ないが伴っていました。そこには大変な犠牲が伴っていました。でも、その犠牲を喜んで払おうとされたのは、あなたのことを神が愛してくださったからです。そして、主イエス・キリストが父なる神を愛するがゆえに、その方の栄光を現わすためにイエスがなされたことは、その方のみこころに100%従うことでした。そのときに栄光が現わされたのです。それが神の愛であり、それが私たちが模範とする愛であり、もう一つ、その愛を実践することが出来る者としてあなたが生まれ変わったのです。その愛をあなたは頂いたのです。そして、そのように生きることが出来る者へとあなたは生まれ変わったのです。

最後に一つ、Iヨハネ2：5にこのように書かれています。「しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。」、つまり、ヨハネは私たちにこのように教えてくれるのです。先ほど見たヨハネの福音書もヨハネの手紙もヨハネが記したのですが、彼が教えることは「このようにして喜んで主のみことばに従って

いこう、イエスが父なる神のみこころに従って栄光を現わしたように、私もみことばに従っていこうと、そのように歩んでいるということは、あなた自身が救われていることの証拠だ。」ということです。みことばを守っているのならその人のうちには神の愛が全うされている、あなたのうちにその神の愛が完全になっていると言うのです。「それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。」と、つまり、救われていることの証拠なのです。

先ほども言いましたが、次のことを覚えておいてください。みことばは私たちに「あなたは愛されていること」を教えます。みことばはあなたに「どのような愛をもって神を愛していくべきか」を教えます。そして、その愛をあなたが実践できるということも教えてくれています。喜んで主に犠牲を払おう、喜んで主を第一にして主が喜ばれることを考えてそのように生きていこう、そして、主が与えてくださったみことばに喜んで従っていこう、そうして、あなたは神に「私はあなたを愛しています」ということを表わしていくのです。そして、そのような生き方があなたには可能だと言います。なぜなら、あなたが救われたから、あなたが救われているから、救われているあなただからこそそのような生き方が出来ると言うのです。

救われた人とは新しい生き方をする者です。そして、このような生き方をする人へとあなたは変えられた、生まれ変わったとみことば教えてくれます。問題は、そのように生きているかどうかを私たちは考えなければいけません。あなたはこんな人に生まれ変わったのですよと教えてくださった。では、私はそのように生きているかどうか？です。もし、反省しなければいけないと思うところがたくさんあるなら、それを主の前に反省して、今日からこのように生きればいいのです。「主よ、あなたがおっしゃったように私は生きていきたい」と。信仰者の皆さん、そういう人に主はあなたを変えてくださる。でも、そのためには私たちがそのように生きたいと心から願って、そのような歩みを始めていくことです。新しく生まれ変わった人、それがクリスチャンだ、その人はこんな生き方をする人だ、神を心から愛する人へと生まれ変わったと言います。それを実践しましょう。神が助けてくださるから。そのようにしてこの一週間、それぞれのところで歩いてください。

《考えましょう》

1. キリスト者の歩む「新しい人生」とは、どのような歩みかを説明してください。
2. キリスト者はどうして「新しい人生」を歩むことが出来るのか？その理由を説明してください。
3. 主への恐れを増し加えるためにはどうすればよいのかを考えてください。
4. 主を愛している人の生き方を具体的に記してください。